

## アルパイン社内で古着回収キャンペーン!

5月から6月にかけての20日近くに亘り、市内のアルパイン株式会社労働委員会では、社内に古着回収用のボックスを設置。社員の方々に家庭で不要のまま眠っている衣類の提供を呼びかけるキャンペーンを行っていただきました。

特に力を入れて提供を呼びかけてくださったのは、市内の障がい者施設で工業用ウエスの材料として加工される木綿素材(綿の組成が35%以上含まれていて、吸水性が高ければOK)。古くなったシーツやタオル、黄ばんだシャツでもOKということで、具体的な回収品目の内容を書き込んだニュースを発行して、提供を呼びかけていただきました。回収された古着の総量は385kg。労働委員会の皆さんが仕分けをした上で、6月24日本会の倉庫まで届けてくださいました。地域の企業さんとのこうした連携がどんどん広がって欲しいものです。



▲古着を届けて下さったアルパイン労働委員会の皆さん▲

## コットンウイークに参加してみませんか?

来る10月7日、いわきで全国コットンサミットが催されます。これは、綿花栽培からものづくりまで国内で取り組んでいる農業者や事業者、アーティストなどが一堂に会しコットンに関する情報を交換する場です。2011年から全国のコットン関係の伝統がある地を持ち回る形で開催



私たちの活動を会員として支えて下さい。  
会費納入をよろしくお願い致します。

会費: 活動会費 (実際に活動に参加される方と、会報購読という形で支援して下さい) 2,000円/年

賛助会員 (資金的な面から支えて下さる方と法人・団体会員) 10,000円/年

郵便振替 (02110-0-21908) でお送り下さい。

されてきました。その第8回の開催地として、福島いわきが名乗りを上げ、全国からコットン関係者300名程が集うこととなります。

また、それに合わせて10月1日(一部前倒しで実施)から8日は、福島コットンウイークと称して、福島県内各地でコットンに関するイベントや店舗企画が催されることになっています。皆さまの中で、コットンの藍染め体験や糸紡ぎなど体験教室をお考えの方、コットン栽培の圃場を公開くださる方がおられましたら、ご紹介ください。コットンウイークの紹介HPなどでPRさせていただきます。



▲コットンウイーク紹介チラシ

## 西日本水害応援募金

東日本大震災直後、ピープルが開設していた小名浜地区災害ボランティアセンターに都内から何度もマッサージの支援に来て下さっていたグループがありました。その中のお一人、山口聡子さんとご縁が繋がって、映画「ザ・トゥルーコスト」の上映会をいわきで開催した時にはお手伝いに駆け付けて頂きました。

その後、愛媛で町おこし協力隊員になるのだと、東京を離れて行かれました。

そして、今回の豪雨災害の最中、西予市野村町でボランティアとして動いているとの報が届きました。被災家屋の片付けや炊き出しに積極的に動いている様子が伝わってきます。私たちは、ご恩返しをしたいと思っています。チャリティーショップの店先に募金箱を置いています。お力添えのほど、宜しくお願い致します。郵便振込でもお受けしております。振込用紙にその旨書き添えて下さい。



▲西予市野村町内の被災状況

### ★つぶやき

近くに住む5人家族。育てているのは30代のシングルマザー。夏ともなれば開き放たれた窓から、聞かすとも聞こえてくる賑やかな騒ぎ声と罵声、そして子犬の鳴き声。朝の登校時間帯と夜中12時近くになると「はやくしろ」と「何やってんだよ」との怒鳴り声が響きわたる。泣き叫ぶ声は2歳と6歳ぐらいの女の子。小学生のお兄ちゃんと思われる子が時々「ウオー」と反抗する。中学生の娘さんはひと言も発しない感じ▼先日出しやばりではあったが子供たちが哀れで自宅に何ってみた。子育て大変でしょうけど、もっと優しい言葉で話せないかしら。このままでは将来大変なことになるよ▼

「夜はいつまでも寝ないし、朝は起きないし...」とこぼすお母さん。これを縁に少しでも手助けして行こうと決意。「又来ます頑張ってネ」と帰宅した▼狼に育てられた少女の話は余りにも有名だが幼い時にどの様な会話で接したかによって人生は決定付けられる。私達が赤ちゃんを育てるとき最初に教える言葉は、一般的に「ありがとう」か「どうも」かもしれない。大人はその「ありがとう」の言葉に目を細め、成長を楽しみながら育てて行く▼先日買い物を終えレシートを頂いた時「ありがとう」と自然に出た。お店の方が言う言葉かもしれないのにと内心笑っていたら、「ありがとう」とお辞儀をするおばあちゃんがあった。「ありがとう」が美しい日本語という訳ではないが、日本語はやはり素敵だと呟いてしまった私である。(K)